

重大事故の防止にご協力ください。

詳細は、タダノホームページの事故事例をご参照ください。



事故事例

走行前、走行中の事故

ラフテレーンクレーン

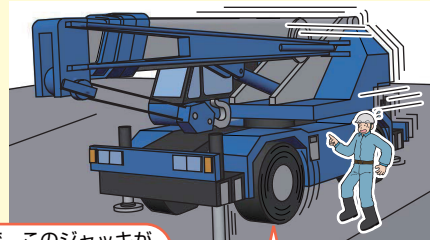
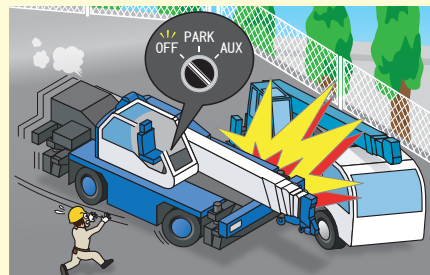
1 クレーン車逸走事故

原因

- パーキングブレーキ掛け忘れ、タイヤ歯止め設置忘れ。

対策

- エンジン始動前と停止後、パーキングブレーキの確認をする。
- アウトリガ操作前、パーキングブレーキスイッチは作業用補助制動装置「AUX」にする。
- 傾斜地での駐車およびアウトリガ操作は、タイヤ歯止めをする。



タイヤが浮いた時点で、このジャッキがすべりながら走り出した

傾斜地でのアウトリガ操作で歯止めをしていない

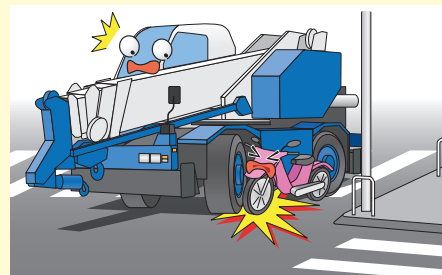
2 クレーン車左折時の追突・巻き込み事故

原因

- 左折時および信号待ち後発進時の確認不足。

対策

- 運行前にミラーの損傷・写りなどを点検し、ミラーの調整をする。
- 左折時は車両左側および横断歩道の歩行者、通行車両の確認を確実にを行う。



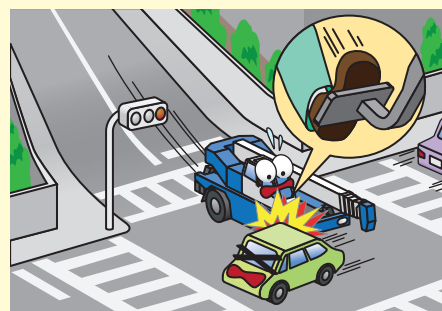
3 ブレーキ制動力低下による衝突事故

原因

- ブレーキフルードの交換をしていなかった。
- 長い下り坂でのフットブレーキの使用過多。

対策

- ブレーキフルードを1年毎に交換する。
- 下り坂へ入る前に安全な速度まで減速し、シフトレバーを下の変速段に入れてエンジンブレーキを有効に活用する。
- 長い下り坂を走行したあと、信号待ちなどで一時停止中は、パーキングブレーキをかけフットブレーキを解放し、放熱させることを心がける。



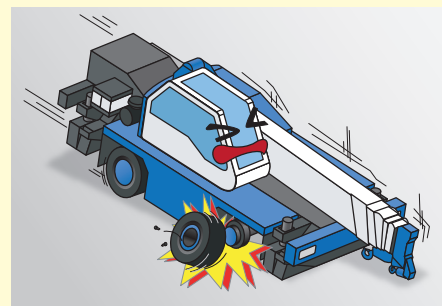
4 走行中のタイヤホイール脱落事故

原因

- タイヤホイール取付時のホイールナット締付不良。
- ホイールナット取付面の錆・異物噛み込みによる、締付後の緩み。

対策

- ホイールナット取付時、取付面を確認し、トルクレンチで確実に締付する。
- 日常点検での目視確認および3ヵ月・12ヵ月毎にトルクレンチによる点検を行う。
- 新車納入後およびタイヤ交換時は50km走行後、次に100、200、500、1000km走行後、以降3ヶ月ごとに点検を行う。



重大事故の防止にご協力ください。

詳細は、タダノホームページの事故事例をご参照ください。



事故事例

作業中の事故

ラフテレーンクレーン

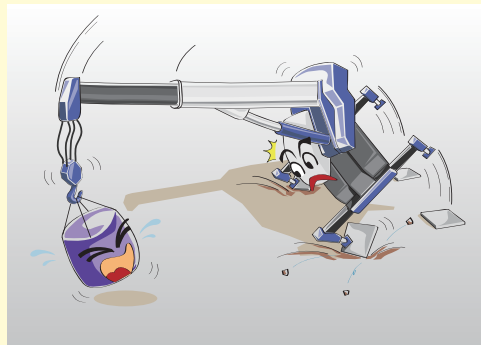
1 地盤沈下によるクレーン車転倒事故

原因

- 軟弱地盤に対する養生不足。

対策

- クレーン作業に応じた十分な地盤養生を行い、アウトリガを設置する。
※大雨後の地盤の緩み、河川の土手など、走行時にも注意する。



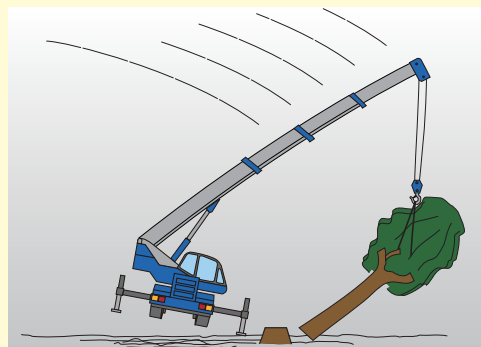
2 木々伐採および建造物解体中のクレーン車転倒事故

原因

- 伐採する木、分解した建造物の質量予測誤りにより過負荷となり転倒。

対策

- 適切なクレーン車の機種選定を行う。
- 玉掛け者と質量予測・作業手順の確認をする。



3 吊り荷落下事故

原因

- ①ウインチワイヤロープ点検不足による切損。
- ②玉掛け不良。
- ③巻過防止装置解除または故障によるフック巻き過ぎ。

対策

- ①日常点検・定期点検でウインチワイヤロープの異常有無を確認する。
- ②玉掛け作業は有資格者が行う。
- ③クレーン作業開始前に巻過防止装置の作動確認をする。

